

あゆみ通信

VOL. 160

あゆみの会(真宗大谷
派大阪教区第2組同朋
の会)推進員連絡協議会
会長 細川 克彦
広報 本持 喜康

第2組聞法会開催



コロナ感染拡大による自粛解除により、恐る恐るであるが、様変わりした生活に戻りつつある。

第2組では、なお、コロナ感染対策を講じつつ、仏法聴聞の聞法会を開催している。

今回は、5月27日(金) 午後2時から天王寺区の了安寺(海老海恵幸住職)を会場に、「共に学ぶ正信偈」と題して、新田修己先生(平野区 正業寺)をお招きしての法座である。組内から住職、寺族と門徒や推進員24名が参加した。

墨林浩組長(光照寺)の進行と挨拶で始まり、海老海恵幸了安寺住職による調声で勤めをした後、新田先生のご法話を聞いた。



先生は前回(2021年9月24日の宗恩寺法座)に続いて「天親菩薩金剛經歸命無得光如来依修多羅顯真実光顯廣超大誓願広由本願力回向為樂阻章一心」について、「一心」「本願力」について話された。

先生は、自身の仏法との関わりを振り返られ、問、直されながら、その歩みについてお話しされ、先達の曾我量深先生や安田理深先生の言葉から深く学ばれ、南無阿彌陀仏と言う、何処にいても如来の呼びかけをこの耳で聞き、その呼びかけに応じて行く私と言う存在を認識し、頷いていく。そのことによって、私と言う存在全体、即ち「生老病死」を受け止める。そこに本当の救い実現されると話されました。

先生のお話を通して、曾我量深先生や安田理深先生、また安富信哉先生、信國孝先生や藤島俊基先生の、それぞれ

れの親鸞聖人からの教えの言葉をお聞きすることが出来ました。(新田先生の法話要旨は別頁にて)

これからの第2組聞法会 聞法会「共に学ぶ正信偈」

日時 7月23日(土) 14:00
会場 唯専寺(浪速区敷津西)
講師 新田修己先生



(4組 正業寺)
参加費 500円

聞法会

日時 8月27日(土) 14:00
会場 光照寺



(天王寺区夕陽丘)
講師 広瀬 俊先生
(17組 法観寺)

参加費 500円
朋友会との合同研修会開催

6月21日(火) 午後1時30分より阿倍野区の即應寺(藤井真隆住職)をお借りして、前回(2019年)以来3年ぶりの朋友会との合同研修会を持ち、GESTに墨林浩組長(光照寺)を迎えながら住職や寺族と会員等20名が参加しました。進行を事務局の本持が担当し、真宗宗歌で開会し、挨拶を朋友会の友澤秀三会長(南照寺)と副組長の池田英二郎住職(宗恩寺)からいただき、法座の講師は中保保明先生(憶想寺)で「出遇いの中で気づかされる私」という講題でお話されました。先生は長く大和谷別院で勤められたが、この8月に退職されて寺方へ帰られた。おから歸郷中の母方恵子様(6月6日)に命終られ、第2組葬の9日に葬儀が行われた。幼少の頃の母のしつけや養育として大学の恩師別院の輪廻による教えや、念仏者の門徒さん夫妻との深交流の中で育てをいただいたお話をされ、現在があると。最後に、寺は世間の価値観を超え如来の教えをいただく場所(當輪廻)聞法を通じて共に教えに出遇いたい。

休憩後の法話は吉田進先生、寺どうあるべきかについて活発な意見が出され、今後も共に切磋琢磨しながら進めていくことを誓い、締めくくられました。細川あゆみの会会長挨拶で閉会しました。

親鸞のことば

「南無阿彌陀仏」の正体とは

これ凡聖自力の行にあらず 「教行証証」

念仏の特徴が端的に述べられた言葉です。「凡聖自力の行にあらず」、念仏は凡夫や聖者が自力で称える行ではないと親鸞お語っています。私たちの口で念仏を称えているのに、それは私たちの行ではないと言います。これは、私たちの口から「南無阿彌陀仏」と言う声になって現れた阿彌陀さまの行(はたらき)が念仏と言うことです。阿彌陀さまの大きなはたらきですから、親鸞は念仏を「大行」と言います。阿彌陀さまはそんな念仏を私たちに与え、浄土への歩みをうながすのです。

(名古屋別院「人生を照らす親鸞の言葉」より)

今、を生きてゐるか

2008年9月、推進員養成講座を修了の年に、第2組主催の「親鸞聖人の足跡を訪ねるツアー」があり、新潟県居多多ヶ浜等へ修了者の何人かと一緒に参加した。講師として帯司いただいた當間秀圓先生(大和高田市・正行寺)とご縁があり、その後寺報「今日のこぼれ」をいただいている。その6月号の一面に「常に今を生きている私」と題したコメントを見て、忘れていたことを言い当てられた気がした。

「寝て起きて、ご飯を食べて排泄して、いわゆる普通の生き方は、ただ動いているだけでは、蒸気機関車と一緒に」と叱られたとある。そして、何かを実現しようと言う意欲を持つことが、生きるということの本質であると。また、「仏教では、私たちは一刹那毎に生死を繰り返していると教えられている。刹那、つまり一瞬一瞬、一日一日。朝、目が覚めてその日を人生初体験。私はその夜死んで行く。生と死は隣り合わせにあり、縁あって生かされているのが私の『いのち』の事実なのである」と。「仏教は、この人生を空しく過ごしてしまうことを問題とし、一瞬一瞬、一日一日を大事に生きよと呼びかけられている」と。

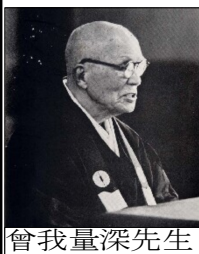
コロナ感染下で、ややもすると、緊張を欠いて、惰性で毎日を過ごしている自分がいた。気を引き締めて、聞法第一。(本)

第2組聞法会「共に学ぶ正信偈」報告 新田先生の法話聞書 細川克彦(佛足寺)



はじめに
新田先生は、今回もまた、天親菩薩の『浄土論』の中の「世尊、我一心に尽十方無碍光如来に帰命して、安楽国に生まれんと願ず」の「一心」について考えてみたいと述べられた。

先生が仏教に自覚的に出会われたのは、20歳の1961年の宗門「700回御遠忌」の時であったと。その時、岡崎の京都会館で「御遠忌記念講演会」が開かれ4人の講演者の中で、曾我量深先生が「信に死し、願に生きよ」という講題で話された時、心にグサッと来たと。



曾我量深先生

それは、曾我先生が善導大師の『往生礼讃』にある前念命終、後念即生」という言葉を解釈された講演で、迷いのいのちが終わった時、即ち本願を信受する時、すぐに阿弥陀の浄土がその身に実感されてくるのだというお話であったと。

先生は、そのことが縁となって真剣に仏教の学びを始められたが、なかなか仏教の言葉が自分のものになっていかないもどかしさを感じておられたが、それは理知分別で求めていたからであったと、当



時を回想された。

そんな中、曾我先生の20～30歳代の著作を訪ねられた中で、『精神界』に発表された「地上の救主」という論文に出会われた。

その論文の中で曾我先生は、遠い所にある如来が私を救うと漠然と考えられていたことに対して「如来は我なり、如来我となりて我を救いたまう。如来、我となるとは法蔵菩薩降誕のことなり」（趣意）と云う3つの言葉に出会われた。

新田先生は、この言葉に出会うことが無かったら、今もウロウロと探し回っていたであろうと。

休憩の後、また曾我先生の「法蔵菩薩が私の中に誕生して、生きてはたらくのは、理性ではなく、本能という領域である」と言う言葉も紹介された。

最後に、「南無阿弥陀仏」と言う名号は如来の、私への「阿弥陀に帰命せよ」と言う呼びかけ(行)である。そして、「帰命します」と呼応する時に、私と言う存在の全体、即ち「生老病死」を受け止めて行くことができるところに救いが実現されると熱く話された。

第2組聞法会6月開催

2022年
6月18日
(土) 午後2時から、天王

寺区の法山寺(藤原憲住職)を会場に第2組聞法会が、組内の住職や寺族と門徒、推進員17名が参加して開催された。法務ご多忙もあつた住職方のご参加が少なかった。進行は池田英二郎副組長(宗恩寺)が開会の挨拶をされて、藤原憲住職の調声で幕開けをして、講師の宮部渡先生(15組西稱寺)からお話をいただいた。宮部先生をお迎えするのを3年前にしながら、コロナ感染拡大で果たせず、ようやく実現したもの。

先生は、その間の自身の予期せぬ開

お悔やみ

村岡精一さん(専行寺)

氏は、2018年に入会され、以来熱心に会議や聞法会に参加いただけていました。

2020年に発病と手術後の闘病中でありましたが、4月27日にご逝去されたと、ご家族から専行寺住職様を通して連絡いただきました。

謹んでお悔やみ申し上げます。合掌。

神保恵子さん(憶想寺坊守)

坊守さんは、ご病気療養中でしたが、去る6月6日(月)ご家族に看取られながら、命終されました。82歳でした。葬儀は、6月9日(木)憶想寺で執り行われました。ここに、謹んでお悔やみ申し上げます。合掌。

第2組人権学習研修会

従来、ご住職や寺族の皆さんで開催されていましたが、せっかくの機会なので、門徒や推進員も参加出来ることとなりました。

特に、コロナウイルス感染拡大による分断と差別が問題となりました。

ご参加を希望される方は、お手次の寺院を通じて7/8までに申込みください。

日時 7月11日(月) 14:00
会場 光照寺(天王寺区上汐)
講師 窪山幸雄先生
大阪企業人権協専任講師)
講題 「コロナ禍での分断や差別問題」

病生活のお話をされながら「正信偈」の七高僧の一人の道輝律師について紹介され、末法の時代に30歳を過ぎて慧賢の師事し、戒律と実践に励み一人者に。48歳の時、玄中寺を訪れ、曇鸞の碑文を読まれて感じられ、自力修行の道を捨て(自力無効)、浄土教に帰依され、「観経」を学び、後の善導大師で伝えると言う大事な役目をされたというお話を教えていただいた。

次回の「共に学ぶ正信偈」は7月23日(土) 午後2時から浪速区の唯専寺で開催です。

あゆみの会と門徒会の合同研修会 予告

日程 9月6日(火) → 予備日13日(火) 13:30～
会場 光照寺(天王寺区上汐) 講師 松井 聡先生(門真市 心願寺) 講題 「南無阿弥陀仏一人として生まれた意味を尋ねていこう」 別途、ご案内します。ご参加をお待ちします。